

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社池田泉州銀行（証券コード：－）

【据置】

長期発行体格付 格付の見通し	A 安定的
-------------------	----------

■格付事由

- (1) 大阪府と阪神間を主要営業地盤とする資金量 5.8 兆円の地方銀行。池田泉州ホールディングスグループ（グループ）の中核を担っている。グループ信用力は、恵まれた営業地盤や良質な貸出資産、業績の安定性などを評価し「A」相当とみており、当行の長期発行体格付はグループ信用力と同等としている。グループは 25 年 7 月にデジタルバンクである 01 銀行の営業を開始した。01 銀行は、従来の金融機関が十分に捕捉できなかった顧客層をターゲットに貸出を行い、高い収益性を目指している。JCR は 01 銀行のリスクテイクの動向を確認するとともに、グループ全体で取り組む収益力強化の成果に注目していく。
- (2) 収益力は格付対比でやや低いが、速いペースで改善している。26/3 期上半期の ROA（投信解約損益を除くコア業務純益ベース）は 0.3%台前半にとどまるが、コア業務純益（投信解約損益を除く、以下同じ）は従前に比べ高水準で推移している。市場金利上昇を受け円建債券の残高を積み増しており、有価証券利息配当金が回復している。今後、システム投資などによる経費の増加が見込まれるが、変動金利貸出の構成比が高く、預貸収支の改善が見込まれることからコア業務純益は堅調に推移すると JCR はみている。01 銀行は当面創業赤字が見込まれるが、当行の増益で吸収可能な範囲にとどまろう。
- (3) 貸出資産の質は良好である。金融再生法開示債権比率は 1%程度で推移しており、分類率も低位に抑えられている。与信費用は、分散の効いた貸出ポートフォリオなどを背景に抑制されている。中小企業を取り巻く環境は引き続き厳しいが、保守的な引当なども踏まえ、当面の与信費用は低位で推移するとみている。
- (4) 有価証券運用にかかるリスクは抑制されている。慎重な投資方針が堅持されており、金利変動リスクは拡大しているものの資本対比で過大とはなっていない。価格変動リスクは引き続き問題ない水準で推移している。その他有価証券の評価損益は、債券にかかる評価損の拡大を主因に全体で評価損となっているが、財務面への影響は限定的である。
- (5) 資本充実度は A レンジの地域金融機関として相応の水準にある。バーゼルⅢ最終化の完全実施をベースとして、自己資本から一般貸倒引当などを控除したグループ連結の調整後コア資本比率は 9%前後で推移している。今後、積極的な貸出によるリスクアセットの増加が見込まれるが、堅調な業績を背景とした内部留保の蓄積により現状程度の資本水準を維持可能とみている。

（担当）大石 剛・山本 恭兵

■格付対象

発行体：株式会社池田泉州銀行

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2026年2月13日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：大石 剛
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年10月1日）、「銀行等」（2021年10月1日）、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」（2022年9月1日）として掲載している。
5. 格付関係者：
（発行体・債務者等） 株式会社池田泉州銀行
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル